

地域資源を守り地域を発展させるためのふるさと納税

～地元事業者と地域の発展～

岐阜県白川町 山口 裕代



はじめに

岐阜県白川町では、人口減少、少子高齢化が進んでおり、消滅可能性都市に名前が挙がっている。町内総生産の経済活動別構成比は、第 2 次産業が 25%、第 3 次産業が 71%である。地場産業としての林業、製造業も衰退しており、町内の様々な職種において、後継者不足等が問題となっている。このような状況の中、将来にわたって暮らし続けていける地域を維持するには、持続可能な経済の仕組みをつくっていく必要がある。

ふるさと納税は、多くの自治体が積極的に取り組んでおり、公式ホームページやふるさと納税サイトで様々な魅力を PR し、地域の特産品をお礼の品として提供している。特産品の提供は、地域内での経済還流を生み、生産者の誇りの創出にも繋がるなど、地域活性化の役割を果たしていくと考える。

しかし、返礼品で寄附者を獲得しようとする市町村間での過剰な競争が繰り返されていくことが課題である。この課題を解決するため、より地域に密着した返礼品を登録し、更に白川町の魅力を発信できるように方向転換することで、地域の個性を活かし経済を活用するための当制度の活用について考えていきたい。

第 1 章 ふるさと納税制度とは

(1) ふるさと納税の概要

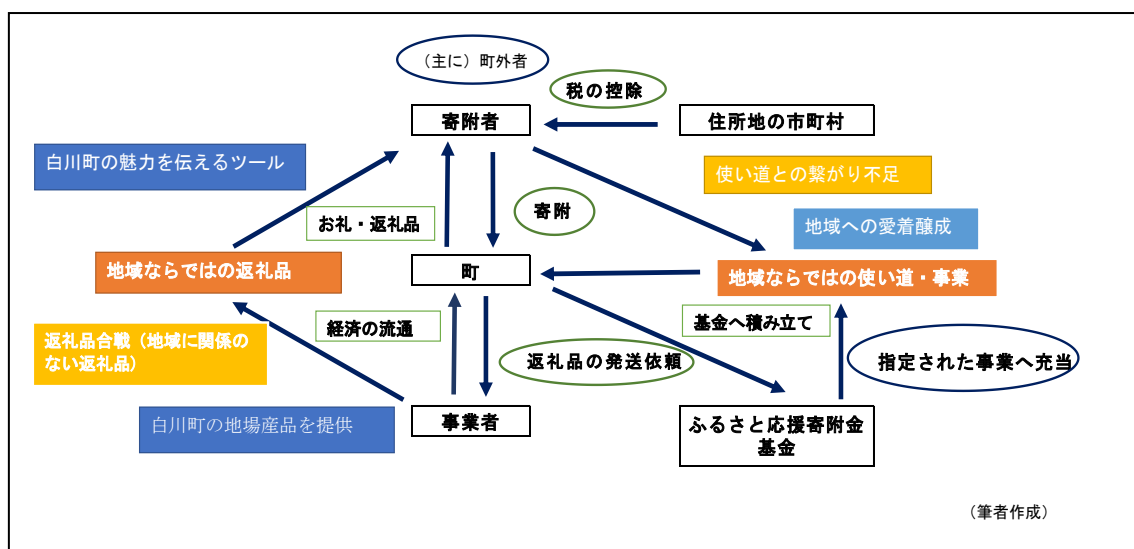


図 1：ふるさと納税制度のイメージ

ふるさと納税とは、自分の生まれ故郷はもちろん、お世話になった地域や、これから応援したい地域の力になりたいという思いを寄附により実現し、「ふるさと」へ貢献するため

の制度である。

住所地へ納税する住民税を実質的に移転する仕組みであり、寄附とそれに伴う税の軽減を組み合わせたものである。寄附者は自治体が登録している返礼品を選ぶことができる。また、寄附者は選択した自治体のふるさと納税に対して使い道を選ぶことができ、特定の目的に対して使われる基金に繰り入れられる。この返礼品や使い道を選択する事で、寄附者の愛着の醸成に繋がり、さらに、自治体は使い道を選択してもらうことで、地域ならではのプロジェクトを応援してもらうことができ、地域の活性化に繋がる。

(2) ふるさと納税の制度の意義

実質的な制度が平成 20 年から始まった「ふるさと納税」は、税に対する意識が高まり、納税の大切さをとらえる貴重な機会であること、生まれた故郷や、お世話になった地域を応援すること、自治体が地域のあり方を改めて考えるきっかけに繋がることなどが目的とされている。

(3) ふるさと納税制度の今

ふるさと納税の制度が始まって 11 年目を迎え、白川町で返礼品を登録し始めてから 5 年が経過した。11 年の中で、返礼品偏重や、直接自治体と関係のない過剰な返礼品による自治体間の競争が問題となり、令和元年 6 月 1 日から施行された地方税法等の一部を改正する法律（平成 31 年法律第 2 号）により創設された、ふるさと納税に係る指定制度がスタートした。全国的に返礼品の見直しが行われ、地場産品を返礼品とすることが必須となり、それまでの実績により寄附金控除ができる自治体であることを告示されることとなった。

白川町の返礼品は当初から地場産品を登録しているが、全ての自治体が改めてスタートラインに立ったからこそ、多くの人に魅力的な町だと思ってもらい、寄附してもらえよう取組を行う必要があると考える。

第 2 章 白川町におけるふるさと納税の現状と課題

(1) 寄附金の状況

白川町では、ふるさと納税の使い道として、大きな分野別とプロジェクト型がある。使い道と寄附実績は表 1 のとおりである。

プロジェクト型と分類した寄附金の使い道は「白川町ふるさと応援寄附金活用事業交付金要綱」に基づき申請され、町の活性化のために行う地域の活動を応援するものである。地域課題の解決や、地域産業を活性化するための事業を応援する仕組みとなっている。

以下、白川町がふるさと納税として募集しているプロジェクトを紹介する。

7) ソフトボールが町技と認定され 40 周年の記念大会を開催する「ソフトボール町技 40 周年記念プロジェクト」

8) 耕作放棄地を花畑にし、有効活用する「耕作放棄地を花畑に！里山メルヘン化計画」

9) 白川町の特産品である白川茶を用い、制限時間内で一斉に茶摘みをする人数でギネス世界記録に挑み、576 人が 5 分間休まずに茶葉を摘んだとして、新しい公式記録に認定され

た「白川茶摘みでギネスに挑戦！！」

10) イルミネーションの装飾を自分たちで行い、地域の賑わい創出を狙った「黒川 TERA SKY イルミネーション」

11) 平成 5 年に地元有志が結成した「桜山会」が公園に桜やカエデなど約 500 本植えて整備をしてきたが、25 年を経過し、ソメイヨシノはてんぐす病に侵され、会員も高齢化し、ボランティアでの管理が限界にきていることから、病変木の手入れや下草刈り、公園内の整備を進めていく「桜山公園の整備および活用促進プロジェクト」

12) 森の中には、絶滅危惧種であるハナノキやケヤキ、ブナ、トチなどが生えているが、人知れず伐採されたり、枯れてしまう場合があるため、実態調査と保護する「100 年の森構想『みんなの遊べる森を作ろう・育てよう』プロジェクト」

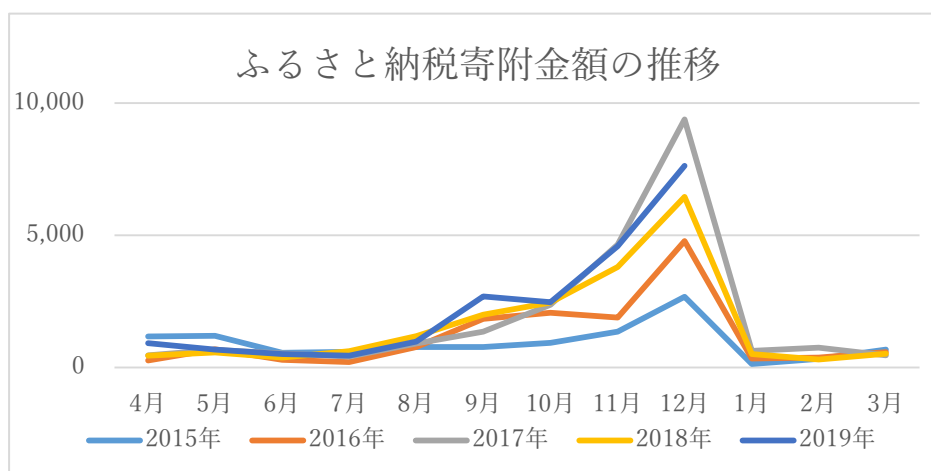
表 1：白川町のふるさと納税の使い道と寄附実績

	寄附金の使い道	H30年度実績		R1年度実績	
		件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
分野別 使い道	1) 豊かな心と人を育てるまちづくり	123	2,150	179	3,822
	2) 安心していきいきと暮らせるまちづくり	84	1,770	91	1,695
	3) 豊かな自然と文化を守るまちづくり	145	3,630	149	4,214
	4) 活力あふれる元気なまちづくり	40	480	41	760
	5) 新たな魅力を発見・発信・育むまちづくり			14	310
	6) 白川町におまかせ	303	6,970	262	8,449
プロ ジェ ク ト 別 使 い 道	7) ソフトボール町技 40 周年記念プロジェクト	15	300		
	8) 耕作放棄地を花畑に！里山メルヘン化計画	54	1,372		
	9) 白川茶摘みでギネスに挑戦！！	106	2,425	6	60
	10) 黒川 TERA SKY イルミネーション	5	90	19	190
	11) 桜山公園の整備および活用促進プロジェクト			38	652
	12) 100年の森構想「みんなの遊べる森を作ろう・育てよう」プロジェクト			15	740
	合計	875	19,187	814	20,892

(筆者作成)

プロジェクト型使い道は、使途が明確であり、寄附者への報告ができています。一方、分野別の使い道は、翌年の事業への財源充当をしており、寄附者への速やかな報告ができていないことが課題である。

白川町の過去 5 年間の寄附金額の推移は、下記グラフのとおりである。



(2) 特産品の提供と事業者の意識

現在、白川町の返礼品は 115 品登録しており（表 2）、白川町で返礼品を登録している事業者は、令和元年 12 月 31 日現在で 28 事業者ある。（表 3）

そして、返礼品の人気ランキングは下記のとおりである。（表 4）

表 2：白川町の返礼品の分類別品数

分類別	品数	分類別	品数	分類別	品数
飲料類	25	食品加工品	8	麺類	2
菓子	24	米	7	調味料	2
肉	11	美容関係	7	イベントやチケット	2
工芸品	11	魚介類	4		
雑貨・日用品	8	野菜類	4		

表 3：返礼品登録事業者

事業者別の寄附金ランキング			
順位	事業所	順位	事業所
1	(株)ニシノ	15	めぐみの農業協同組合
2	(有)白川町農業開発	16	(有)てまひまグループ
3	(株)白川菓匠 大黒屋	17	(株)佐見とうふ豆の力
4	(有)藤井ファーム	18	五段農園
5	(株)白川園本舗	19	千空農園
6	(有)今井米穀商会	20	松川屋
7	(株)トーホー	21	東濃ひのき製品流通協同組合
8	(株)ますぶち園	22	(株)美濃白川クオーレの里
9	美濃白川ゴルフ倶楽部	23	社会福祉法人 清流会
10	(株)菊之園	24	鉄の造形工房のぶクラフト
11	一力屋	25	クウスムデザイン
12	紅屋	26	田と山
13	美濃白川麦飯石(株)	27	(株)柏屋
14	米田園茶舗	28	(株)S・K・C
			(筆者作成)

表 2 のとおり分類別の品数で見ると、飲料類と食品類が多い。事業者を寄附金額の順番で並べると、表 3 のとおり 1 位は乾燥薪、2 位は飛騨牛、お茶、ハム等を扱っており、3 位は老舗のお菓子屋である。

事業者はふるさと納税サイトに商品を登録後、商品写真の見直しや、内容の見直し等をなかなかせず、行政側から声掛けをしても、忙しさを理由に更新しない。同じ返礼品に対するリピーターも多いが、もう少し商品の魅力を発信できる体制を整え、自分たちが販売している商品の PR 方法を考えていくことが事業者の課題であると考えられる。

表 4：白川町返礼品人気ランキング

白川町返礼品人気ランキング		
	平成30年度	令和元年度
1位	飛騨牛A5等級350g	乾燥薪(ナラ)400kg(岐阜、愛知、三重一部限定)
2位	無薬育ちのあんしん豚 味のいろどりセット	白川茶ペットボトル24本入り
3位	乾燥薪(ナラ)400kg(岐阜、愛知、三重一部限定)	無薬育ちのあんしん豚 味のいろどりセット
4位	白川茶ペットボトル24本入り	あんしん豚しゃぶしゃぶセット
5位	大黒屋杵つき田舎餅	ますぶち園の白川茶5袋詰め合わせ
		令和元年12月31日現在(筆者作成)

人気の返礼品の中でも、乾燥薪は、薪ストーブに使用するナラの薪を 400 kg、岐阜県、愛知県、三重県の一部限定で配送するサービスもあり、人気が高い。また、無薬育ちのあんしん豚は、抗生物質・殺菌剤・ワクチン・ホルモン剤・駆虫剤など、薬を一切使わず育てており、清らかな活性水と、餌には微生物を使用しており、のびのびと大自然で育った豚である。そして、白川茶ペットボトルは、急須でお茶を飲まなくなった人が多い中で需要が高まっている。白川茶は甘味も渋みも感じられる。お茶は地場産業でもあり、競争相手が多いのが現状である。お茶の詰め合わせの仕方や、お茶の種類(手もみ茶、茎茶、ティーバッグ、粉末状のお茶、ペットボトル)で事業者の個性を出している。

返礼品として地場産品を届けられているという点では、引き続き登録できる物が多いと考える。返礼品を登録してから 5 年間経過し、ずっと登録し続けているモノが多く、新たな返礼品の登録もあるが、年間数件というのが実情である。新しい商品開発も、なかなか難しく、地域にある資源を活かした返礼品を検討していくことが大切であり、白川町へ訪れ実際に体験できるコトがあれば、もっと白川町の魅力を伝えることができるのではないかと考える。

令和元年 8 月に、ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」の運営会社である(株)トラストバンクによる事業者説明会が開催された。今回は、令和元年 6 月 1 日から制度改正があったこともあり、ふるさと納税の制度について再認識をすること、ふるさとチョイスで人気のある返礼品の商品掲載のテクニックを学ぶ等、白川町内で返礼品を出品している 25 事業者へ声をかけ、今後参加希望している事業者も含めて 18 事業者が参加した。

平成 26 年度からふるさと納税サイトに掲載していても、実際にサイトをチェックする事業者は少なく、当初から掲載されている写真の見え方を確認する機会となった。ふるさとチョイスでは、地域事業者が特産品を開発するためには開発費や販路を探すなど、リスクの高い事業について、リスクを低くすることでチャレンジできる機会にしたいという思いがあり、それを伝える機会になった。

説明会終了後、参加した事業者にアンケートを行ったところ、結果は下記のとおりとなった。

○アンケート調査内容、結果

質問	回答
①印象的だった、または勉強になった点を教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・写真の掲載、ページ作り ・やり方次第でもっともっと宣伝効果のある方法を活用できると思った。 ・他の業者さんの同梱物の話は大変参考になりました。 ・数量、容量を変える、コラボ商品を作ってみるといった部分。 ・商品の紹介、こだわり紹介文など、商品の良さを訴える事。
②本日のセミナーで実勢しいことを記入してください。	<ul style="list-style-type: none"> ・同梱物の充実。 ・手書きのお礼文を作る。 ・写真の工夫。写真を変更していく。 ・新商品の開発。 ・商品やページを改善していきたい。
③もっと具体的に聞きたい点や、今後知りたいことがありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税制度について ・ページの見せ方について。 ・同梱物について。 ・ECサイトについて。 ・商品開発について。
③その他、ご意見・ご感想がございましたらご記入ください。	<ul style="list-style-type: none"> ・何気なく業務をしていたので、いろいろ知れて良かったです。 ・とても勉強になりました。この制度をもっと知りたいと思った。 ・実践的な内容で大変勉強になりました。 ・チャレンジ意欲がわいてきました。

(17 事業者回答)

他の町内事業者がどのような商品を提供し、どのような内容で掲載しているかを知り、同梱物でリピーターを増やす努力が必要であること、全国からの注文に応えることで、製造している商品を知ってもらえること、贈答品として選ばれれば、ふるさと納税に関心が無い人にも商品が届くことなど、きっかけは様々であるが、自分たちでPRできないところへPRできるチャンスになることが伝わったのではないかと考える。

(3) 事業者の活性化のために

今回の説明会で、他の事業者と顔を合わせたことにより、地場産品同士でのコラボレーションの可能性が出てきた。地域の中の異業種同士が繋がっていくことで、地元の特産品を再発見する機会となる。例えば、お茶とお菓子をセットにして、お茶屋さんとお菓子店が

コラボレーションをする。白川町産の有機野菜を栽培している農家と、その野菜を食べる時の調味料（トマトと味噌の調味料：とみそ）とのコラボレーション等を通して、事業者同士が交流し、相乗効果で地域全体の経済が活性化していくのではないかと考える。また、定期便の返礼品をコラボレーションする事も可能であり、白川町産のお米と、白川町で育ったにわとりの卵で朝食セットや、お茶と季節のお菓子が届くセット等、白川町を感じてもらえるような商品のコラボレーションができるよう仕掛けていきたい。

第 3 章 ふるさと納税を最大限に活用するための提言

(1) 寄附金の使い道

ふるさと納税を考える時、寄附者の多くは返礼品を重視する傾向にある。返礼品も地域の魅力を知ってもらえるツールであるが、これからは使い道を重視するふるさと納税として、寄附者から選択してもらえるような使い道を設定していきたいと考える。

現在、寄附者は寄附金の使い道に、「白川町におまかせ」を選択する人が多い。これは、使い道の内容について寄附者から十分な理解を得られず、返礼品を選ぶことが目的となっていて、使い道に興味がないためではないかと考える。ふるさと納税は、一旦一般会計から基金に繰り入れられ、翌年度の事業に充てる方法をとっている。寄附をしてもらった年度内の事業に充てるのが理想的だと考えるため、白川町での課題を具体的に挙げる事が重要であると考え。守りたい自然、文化はあるが、人手が足りない、お金が足りないことを伝え、白川町出身者が応援してくれる、白川町へ興味を持った人が応援してくれる事に繋げていきたいと考える。例えば、まちの資源を活用した下記の事業についての課題を提示し応援をお願いすることは、目的が明確であり、白川町の文化を守っていく手段になる。

①パイプオルガンの維持・管理

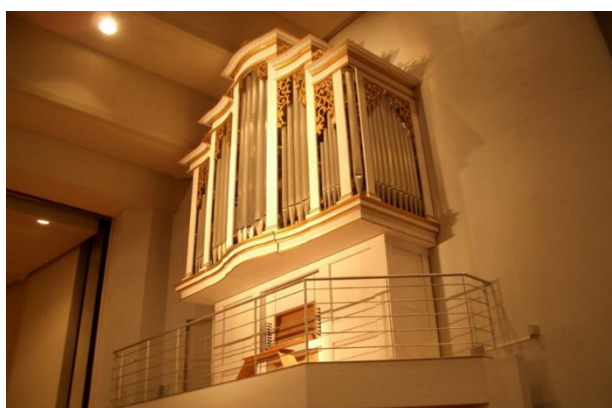


写真 1 町民会館グロリアホールにある
パイプオルガン（白川町撮影）

パイプオルガンは、町内に 4 台（町民会館 2 台、黒川中学校 1 台、蘇原教会 1 台）設置されている。パイプオルガン建造家の故辻宏氏が昭和 51 年に白川町へ移住し、辻オルガンを開設した。昭和 59 年にイタリアのピストイア音楽院講堂の古いパイプオルガンを修復した事をきっかけに、白川町とピストイア市が友好都市関係となり、平成 6 年に姉妹都市提携を結んだ。毎年 8 月にイタリア・ピストイア市から講師を招いて、イタリア・オルガン音楽アカデミーを

開催している。令和元年 8 月の開催で、第 35 回目を迎えた。イタリア・オルガン音楽アカデミーには県外からの参加者が多く、ピストイア賞を受賞するとイタリアの音楽アカデミ

一を受講することができる。また、町内外を対象とした、入門講座、中級講座も行っており、子どもの受講生が多くなっている。2005 年 12 月に完成した白川町町民会館のグロリアホールにある大型のパイプオルガンは、完成から 15 年が経過しており、パイプが 1,496 本と 36 のストップ¹を備えている。デリケートな楽器であり、イタリア・オルガン音楽アカデミーや、オルガン講座の前には調律を行う必要がある。パイプ、ストップともに消耗品であり、メンテナンスが欠かせない。町の大切な資源として維持・管理していくためには、経費がかかるため、イタリア・オルガン音楽アカデミーに参加する県外からの受講生をターゲットに応援してもらおうように考えたい。残り 3 台あるパイプオルガンも、中学校や教会にあることから、気軽に触れる機会が多いことを PR し、白川町がパイプオルガンの町として存続していくことを応援してもらいたい。

②芝居小屋「東座」の維持・管理

「東座」は、明治 22 年にこけら落としされ、昭和 35 年頃、老朽化により閉鎖した。平成 3 年に修復が行われた芝居小屋である。平成 3 年に 5 代目中村勘九郎が名誉館長に就任し、平成 18 年には 18 代目中村勘三郎襲名披露公演を行った。平成 25 年には 6 代目中村勘九郎が名誉館長に就任した。平成 31 年 3 月には、中村勘九郎と中村七之助による公演も行われた。



写真 2 芝居小屋「東座」外観（白川町撮影）

東座では、毎年地元住民が出演し、地歌舞伎を上演している。使用する道具や、舞台装置等も消耗していくため、維持・管理には毎年お金がかかる。舞台の床の張替えや木造建築の補強など、管理については、地元の木材業者と密接に関わってくる。また、小道具などの更新についても、地元の様々な業者が関わるため、地域の経済が還流することになる。住民にとって誇りを持って自慢できるモノであり、白川町を離れた人にとっても、誇るべきモノ・コト

として認識してもらい、応援をして欲しいと考える。

(2) 返礼品としての特産品

今後、ふるさと納税を進めていく中で、設定した使い道と関係性のある返礼品を登録したいと考える。第 3 章の提言で述べたとおり、ふるさと納税の使い道で白川町に興味を持ってもらい、興味を持ってもらえたモノ・コトに実際に触れてもらい、白川町の魅力を知ってもらうこと。使い道を選んでもらった事により地域の資源である文化や伝統を守る事

¹ 音色を選択できるパーツ

に繋がり、地元の事業者も巻き込んでいく事になる。そして、返礼品を選んでもらう事により、地域事業者の活性化が図られ、地域経済の循環に繋がる。返礼品を登録している事業者も、今はあまり感じる事ができていない、ふるさと納税が地域にもたらす影響をもっと身近に感じてもらう事ができると考える。現在 115 品目登録されている特産品については、見直しを行いつつも、白川町の魅力を感じられるモノとして継続していきたいと考える。しかし、直接白川町を訪れてもらう事により感じられるものがあると考え、下記のような返礼品を検討していきたい。

使い道で維持・管理をしていこうとする「パイプオルガン」と芝居小屋「東座」を活用し、「パイプオルガンを弾くことができる」や、「東座で地歌舞伎を体験できる」など体験型の返礼品を考えていきたい。

①パイプオルガンについては、パイプオルガン建造家の故辻宏氏に師事した 3 名が白川町に在住し、活動しているので、音が鳴る仕組みを解説してもらいながら弾き方を教えてもらう、音色を聴かせてもらうなど、普段の生活で触れることがなかなか無い楽器に触れてもらい、パイプオルガンに直接触れられる機会を返礼品で実現できたらと考える。実際に触れてもらう事で、パイプオルガンはどうやって造られているかを見てもらい、今後残していく事の重要性を感じてもらえるようなものにしたい。そして、白川町を訪れてもらうことで、どんな町なのかを感じてもらい機会にしたい。また、パイプオルガンはたくさんのお木を使用して制作されており、町内にある木材を活用できるモノでもあるため、維持していく際に関わる地域事業者が出てくる。例えば、白川町森林組合、(株) トーホー、東濃ひのき製品流通がある。町の大切な資源を町にある事業者とモノで維持していく仕組みを構築していきたい。このため、木材関係の業者との協力は必須となり、経済循環が生まれていくようにしたい。

②芝居小屋「東座」については、返礼品を登録している菓子販売事業者である(株) 白川菓匠大黒屋が保存会のメンバーでもあるため、体験できる日程を決めて、衣装や小道具、舞台装置の説明など、古き良き歌舞伎小屋を体験してもらい、保存していくべき場所であることを伝えていきたい。同時に黒川地内にあるお茶屋さん((株) 白川園本舗、(株) ますぶち園、米田園茶舗等)と菓子販売店((株) 白川菓匠大黒屋、松川屋)に協力してもらい、文化とお茶と季節のお菓子を味わえるイベントを行い、白川町が提供している特産品に直接触れてもらう機会を創出する。最近では、一般社団法人アートアンサンブル白川が運営する「東座アーティスト・イン・レジデンス」が、東座を活用した「おばけ屋敷」や「地歌舞伎ここんとこ展」(歌舞伎の演目を、イラストパネルを使って再現し、花道や奈落など小屋の説明をしながら魅力を伝える展示)を企画している。このような団体も巻き込みながら、地域が活性化するイベントの開催時に寄附者が訪れる機会をつくっていき、白川町を知ってもらえる機会となる。

おわりに

ふるさと納税は、寄附者、事業者、市町村が交わることができる制度である。寄附者がどこを「ふるさと」と考えるか、どこの市町村にでも応援してもらえる可能性があり、自主財源だけでは解決できない課題の解決の助けとなる。11 年かけて構築されたふるさと納税という仕組みを、最大限に活用できるように、返礼品も使い道も検討し続けていきたい。

今回、地域課題を考え、地域資源での解決を考えた際、まだまだ眠っている地域資源があることに気づくことができた。当たり前にあるモノ・コトは資源であり、それを活用して地域の個性と地域経済を活かしたふるさと納税を、白川町らしい取組をこれからも続けていきたいと考える。

最後に、地域リーダー養成塾で御指導をいただいた、横浜国立大学大学院准教授の野原卓先生をはじめとする講師の先生方、地域活性化センターの皆様、第 31 期塾生の皆様、そして、業務多忙にもかかわらず本研修に送り出していただき、また、本稿の執筆にも御協力いただいた職場の皆様に感謝を申し上げます。

【引用文献・ホームページ、参考資料】

- ・ 岐阜県ホームページ
- ・ ふるさとチョイスホームページ
- ・ 株式会社 トラストバンク アンケート調査
- ・ 白川町誌 現代編
- ・ 白川町ホームページ